

株式会社 油研

☎ 本社 0584-71-1888
☎ エコウッドパーク 0584-71-4405
✉ info@yuken-gifu.jp



義理、人情、仲間たち。

注！目

エンジンルーム磨き

Before



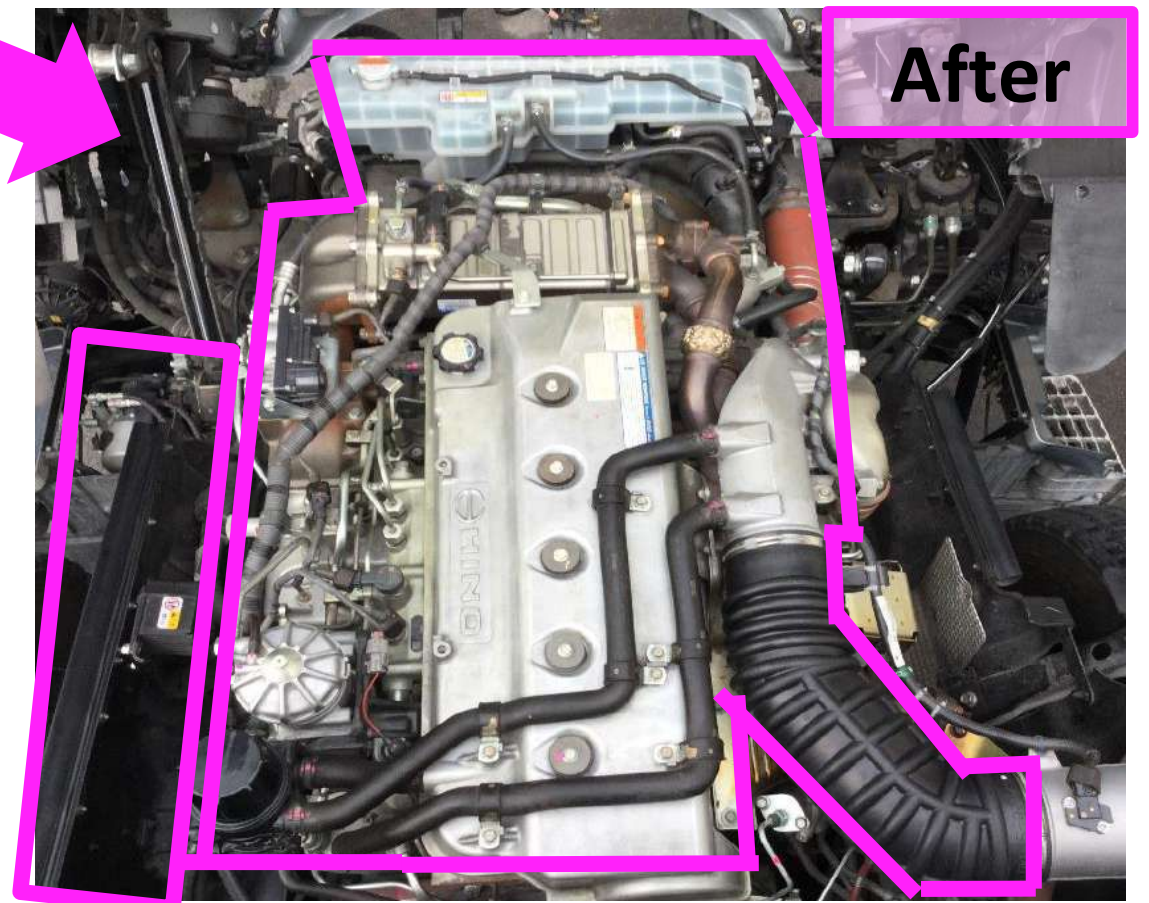
ドライバーが3人1組となり、**ピカピカツヤツヤ**に

磨き上げました！！！！

油研では、車両の**3ヶ月点検**でエンジンルーム磨きを実施。

年4回行います！

After



隅々まで、ピカピカに！



共に働く車両はパートナー
ドライバーのパートナーである車両のエンジンルームを、ドライバーをはじめとする社員で環境整備！ドライバーの背中が頼もしい！

ドライバーズチームの力！すごい！



油研社の「今」なにしてる？

7月号 担当は小暮麻心です！

2018年4月入社
小暮 麻心(こぐれ まみ)
福井大学院工学研究科



深夜寄席は90分で1,000円！



すぐに笑える！近さがいい！

先月末に人生初の「落語」を観てきました！
東京の新宿「末廣亭」が会場で、深夜寄席でした。

演目は4つ「恪気(りんき)の独楽(こま)」

「多数決」(新作)

「住吉駕籠(すみよしかご)」

「宿屋の仇討(やどやのあだうち)」

終始笑いが止まりませんでした！とても楽しい時間となりました。



四国初の小型バイオマス発電

シン・エナジー 地元産未利用材を活用



内子バイオマス発電所の完成予想図

再生可能エネルギー事業を展開するシン・エナジー(神戸市)は、愛媛県内子町で計画を進めてきた木質バイオマス発電施設「内子バイオマス発電所」の建設に着手した。順調に進めば、今年11月にも発電を開始する見込み。運営は、木質ペレット製造を手掛ける内藤鋼業(同町)などと共同で出資・設立した内子バイオマス発電合同会社(同町)が行う。発電規模は、未だ未定の商用小型バイオマス発電所としては、四国で初めての施設という。

同施設は、内子町から土地を賃借し、内藤鋼業の木質ペレット工場に隣接した場所に建設する。発電設備には、独・ブルクハルト社製の小型高効率木質バイオマス熱電併給装置6機と、米・アクセスエナジー社製のバイナリ発電装置1機を採用。定格出力は1115キロワットで、年間発電量は一般家庭約2500世帯分の年間消費電力に相当する883万キロワット時(うち送電量は811万キロワット)。発電した電力は全量を四国電力に売電する予定だ。

内子町は2007年にバイオマスタウン構想を策定し、木質ペレットストーブの導入など早くから木質バイオマス資源の有効活用を進めてきた。今回の事業では、燃料となる原木を同町森林組合をはじめとする地元林業事業者から調達し、内藤鋼業が木質ペレットに加工する。利用量は年間5700ト。周辺地域から集めた地元産未利用材を活用することで、ペレット生産業者を含め安定した雇用創出につなげる。

木材情報

683

木質燃料の品質と規格④

木質チップやペレットの規格は、いくつかの業界団体が行っているが、全体を統一した形のものはまだない。

しかし、規格されているチップやペレットを扱う欧米の熱電併給機器や木質バイオマスボイラーは、もちろん適切な含水率やサイズなどに規定がある。ここが守られなければ十分に機器の性能は発揮できない。特にガス化発電などでは含水率が高ければタービンなどの問題が発生し、時に致命的な問題となる。

規格の定着と品質向上

どチップやペレットとの相性だ。もちろんどんなボイラーでも不適切な燃料が入れば問題が起る可能性があるのは当然である。ある一定の範囲内のサイズで、ある一定の範囲内の含水率を持つなど、規格を守ったものが流通の主流になれば、さまざまなボイラーやガス化発電装置などでのトラブルは当然減少するだろう。

実際国内で設置されている欧州の木質バイオマスガス化発電(熱電併給)装置において、十分な稼働率が得られていないことも少なくない。その理由の大半が含水率やサイズな(この項おわり)

欧米とは異なる面もあり、全体の規格というものが市場に定着するには時間がかかるかもしれない。規格の浸透が品質の明確化・向上を進めていくことになるだろう。

記者手帳

中国で新しい動きがある。A級品のPETフレークは輸出できるといっても、環境規制で貿易が止まるまで、PETのキャップラベル付フレークやプレス品等は、日本から最大年40万ト輸出していた。今は、直接中国へ

は行っていない。日 本国内でペレットやシートにして活用される。別国で、再生ペレットにしてから中国に再輸出するケースもある。もちろん、環境規制は、PETフレークのA級品は輸入を許さず、国に提言した。結果、5月14日に中国国家レベルから各税関に文書で届いた。しかし、税関については、今だに止まっている。基準のハードルは高い。今「基準」を巡る攻防が行われている。(※)

中国A級品PETフレークに異変

中国政府は、国内回収を増やし、不足分はパーソン原料を使う。この二つで足りると考えていた。しかし、原料不足が顕著になってきた。各税関が自主的に輸

